



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 186 号

令和 4 年 3 月 31 日

編集 旭川医科大学
発行 学生支援課



「シマエナガ」

(写真撮影：学生支援課)

第 9 回医学科白衣式……………	2	国際ロータリー第2500地区 第3分区様から本学学生への支援金を賜りました…………	31
「第2回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会」を 開催しました……………	3	令和4年度 日本学生支援機構奨学生の募集について……………	31
第5回先輩看護師と行う 看護技術スキルアップトレーニング……………	4	令和4年度授業料の免除等の申請について……………	32
授業評価(2021年度前期)……………	5	国民年金の学生納付特例制度について……………	33

「第9回医学科白衣式」

令和4年1月13日(木)旭川医科大学看護学科棟大講義室において、医学科白衣式を挙行之、医学科第4学年の学生133名が出席しました。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンラインでの実施とし、学生代表者3名が会場で出席しました。

白衣式は臨床実習を目前に控える医学科第4学年を対象に、これから医療者の一員として、社会に貢献する立場になることを再認識させる等、「医師としてのプロフェッショナリズムを涵養する」ことを目的として行っています。

式典では、西川副学長・教育センター長から学生へ祝福と激励、さらに「医師としてのプロフェッショナリズム」についてお話がありました。

続く、白衣の授与にあたっては、西川副学長・教育センター長をはじめ3名の先生方が白衣プレゼンターとなり、代表学生はそれぞれ名前入りの白衣を着せてもらいました。白衣授与の際、プレゼンターから祝福や激励の声が掛けられ、学生たちがそれに笑顔でこたえる様子が見られました。

その後、西川副学長・教育センター長から代表の学生へStudent Doctor認定証が授与されました。Student Doctor認定証とは医師免許を持たない学生が、臨床実習を行うに足る知識・技能・態度を備えていることを患者さんや実習先に証明するものです。学生たちは、これからStudent Doctorとして更なる知識や技能の習得に励みます。

式の最後には、学生から〔46期生誓いの言葉〕の宣誓が行われました。誓いの言葉には学生が考えた医療人としての目標があげられました。

学生たちは誓いの言葉で目標とした医療人を目指し、新たな一步を踏み出します。

〔46期生誓いの言葉〕

豊かな想像力をもち、驕ることなく謙虚な姿勢で命と向き合います。
人命を預かる責任を胸に刻み、仲間と共に成長を続けます。
新たな概念に臆せず柔軟に対応し、医学の向上に努めます。
この身全てを、人々の笑顔のために尽くします。



「第2回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会」を開催しました

昨年9月の第1回に続き、3月1日に第2回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会を開催しました。

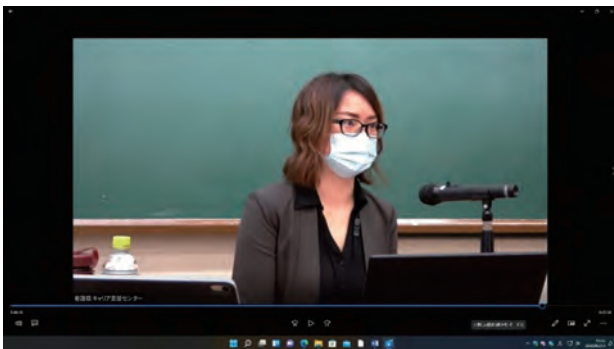
看護職キャリア支援センター 教育プログラム開発部門では、多様な文化や価値観を理解し外国人患者に対応できる看護職の育成を目標に講演会を企画しています。今回は第2回として、国境なき医師団の活動経験のある本学看護学講座 杉山 結理助教から「後発開発途上国で生きる人々への医療活動」をテーマにご講演いただきました。

講演は国境なき医師団の社会的活動の紹介や、実際に活動された中央アフリカ共和国・コンゴ民主共和国の生活や医療の実際を動画や写真を通しお話いただき、医療や健康は社会的要因に大きく左右されることを改めて感じる貴重な機会となりました。先生の活動経験を講演会の目的である外国人患者に対応する場合に置き換え、共通する基本となる考え方を伺うことができました。また、事前の質問や講演会での質問に関し、先生の経験や日常から心がけていることを聞くことができ、参加者からも「その国々の社会情勢や個人の生活背景・価値観等を把握し関わっていくことの重要性を学んだ」「海外で貢献したいという気持ちを高めることができた」等の感想がありました。

開催は、会場とZoomによるハイブリッド形式で行い、学内の他、学外からの参加もあり、国際医療に対する関心の高さが伺え、「第2弾を楽しみにしています」「また聴講したい」という意見も多数いただき、今後の部門活動に活かしていきたいと思えます。

ご講演いただいた杉山先生、国際医療や後発開発途上国の現状をご自身の経験から、実際の医療現場に反映できるよう文化の違いなどをわかりやすくお話していただき、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

(旭川医科大学看護職キャリア支援センター 教育プログラム開発部門)



講師 看護学講座 杉山結理助教



講演の様子①



講演の様子②

第5回先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング

令和4年3月1日(火)、看護学科は「先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング」を開催しました。この学習会は、卒業・就職を控えた4年生が旭川医科大学病院に所属する先輩看護師と一緒に看護技術を練習し、安心して就職できるようにと開催しているものです。看護学科同窓会や旭川医科大学病院看護部のご協力のもと、今回で5回目の開催となります。今年は、4月から看護師として就業予定の5名が参加し、先輩のプロの技術を目の前で確認しながら、採血などの実技や患者さんとの会話のコツなどを教えていただきました。練習後には、(感染対策を図りながら)就職にあたり不安に感じていること、疑問に感じていることなどを相談する機会が設けられ、先輩看護師との交流を深めていました。参加した学生からは「どの技術もとても丁寧に詳しく教えてもらえてとても勉強になった」、「自分の不安や疑問を解決でき、4月から看護師として頑張ろうと思った」などという感想がありました。先輩看護師からは「病棟での経験を踏まえながら技術のコツを伝えることで、自分が行っている看護を振り返る機会となった」、「不安な気持ちや4月からの生活の疑問に答えることができ、プリセプターとしての後輩へのかかわりに活かせると思った」などの感想があり、学生・先輩看護師双方に良い学びのあった、大変有意義な会となりました。次年度からは看護職キャリア支援センターとともに実施予定です。多くの学生の参加をお待ちしています。

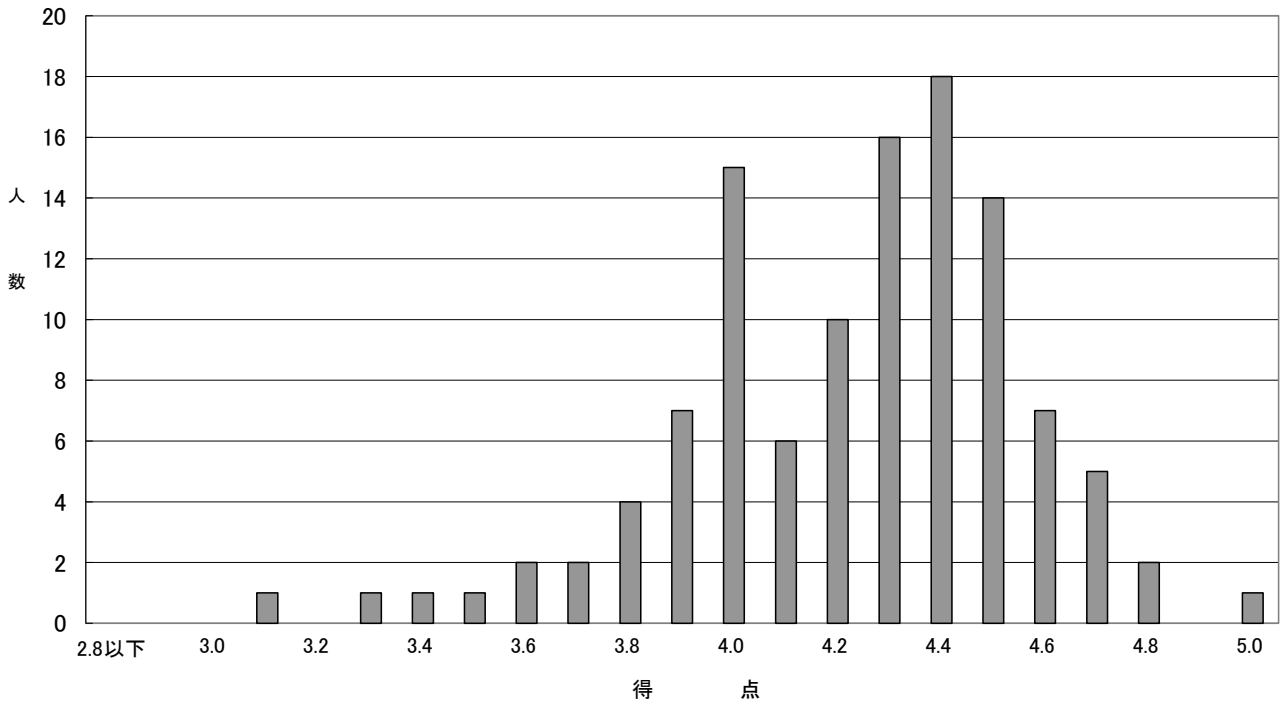
(看護学科)



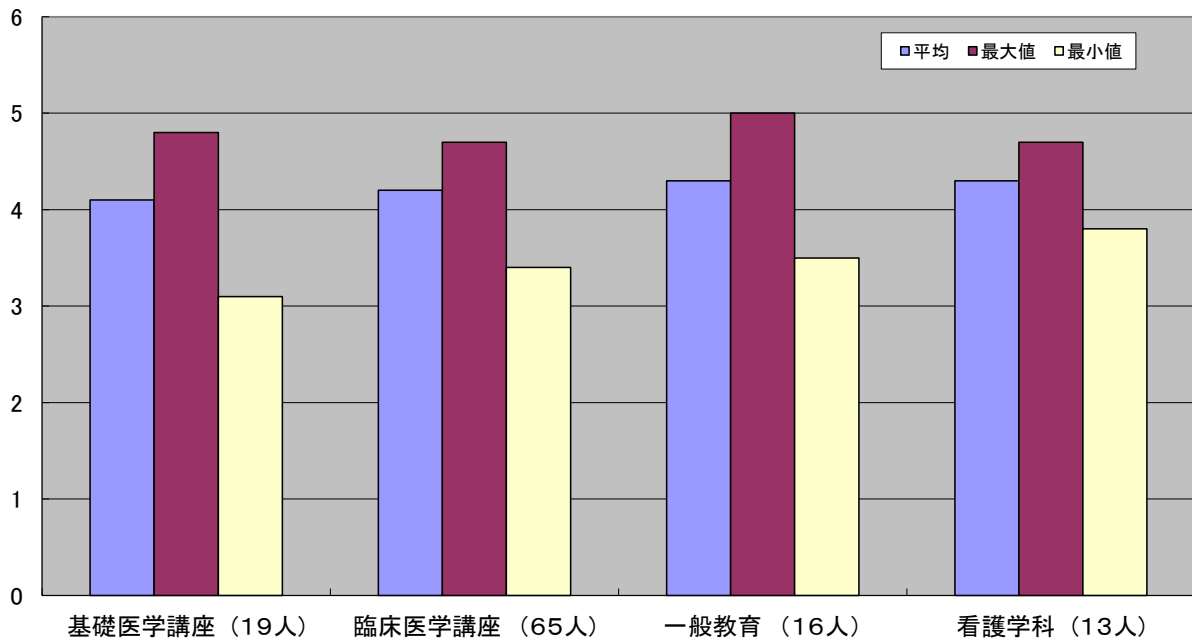
2021年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																						
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
				1		1	1	1	2	2	4	7	15	6	10	16	18	14	7	5	2		1

(実施人数113・平均4.2)



部局別教員の平均点と最高・最低点



2021 年度前期「企画に対する学生評価」

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度・理解度について	問1 事前に教科書や講義資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 この科目はどのくらい理解できましたか？
	問3 授業の復習を毎回しましたか。
目的の達成	問4 科目の一般目標を達成することができましたか。
科目内容	問5 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
総合評価	問6 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（物理系）

履修者数：29 配付数：29 回収数：17 回収率：58.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
4.1	3.9	3.6	3.7	3.9	4.1

*評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価は昨年とほぼ変わらず4.1であった。個別の設問では予習復習についての項目が例年より1ポイント以上高く、それを反映してか理解度や難易度の適切さについての評価が高い。昨年度に引き続き manaba を使って配布した講義資料を基に自習してもらった授業形式であったが、講義資料を事前に配布することが各自に予習を促し、これが授業の理解度及び満足度の上昇につながったのではないかと考える。

科目名：自然科学入門（化学系）

履修者数：3 配付数：3 回収数：2 回収率：66.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.5	3.0	3.5	3.5	4.0

*評価に対するコメント

自然科学入門（化学系）担当教員

例年、この科目を選択する学生は数名であるため、講義は学生との対話形式で進めながら、学生の理解度を把握しながら講義を行っている。今年度は受講した学生は3名で、対面とオンラインを併用して講義を行った。講義では高校化学を薄く広く復習するのではなく、今後の基礎化学の講義内容の理解につながる基礎的な考え方の理解に重点を置いて講義を行った。結果的に受講した学生は高校で習った化学や物理で疑問を抱いていた部分や発展的な内容を学ぶことができた。

科目名：自然科学入門（生物系）

履修者数：64 配付数：64 回収数：44 回収率：68.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.2	3.5	4.0	4.4	4.8

＊評価に対するコメント

自然科学入門（生物系）担当教員

本科目の目的は生物学の基礎知識や思考力を身につけることです。講義は対面と zoom を併用しました（大きなトラブル無し）。1コマ60分のうち、話す時間を40分、質問対応を10分、残りを小テストとしました。質問はほぼ毎回あり活発でした。総合評価が4.8と高かったのですが、アンケートが実名式なので低評価をつけづらかったのかもしれませんが。引き続き、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと思ひます。

科目名：医療概論 I

履修者数：95 配付数：95 回収数：68 回収率：71.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.2	3.3	4.1	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

医療概論 I 担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて「思考する」ことを目的としている。各講義で配布されるワークシートへの回答をお互いが参照できるようにしたことで、多様な意見を吸収しながら自分なりの「こたえ」を出すことができたようである。今後の医学・臨床の学びに活かしてくれることを期待する。

科目名：情報統計学

履修者数：95 配付数：95 回収数：69 回収率：72.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	3.8	3.5	3.9	3.8	4.4

＊評価に対するコメント

情報統計学 担当教員

今年度の授業形態は分散登校とオンラインとのハイブリッドでスタートしましたが、学期中の感染拡大、及び重点措置等の期間も長くなり、オンライン中心での実施となりました。ご不便をおかけしましたが、学生全員がシステム機能をスマートに使いこなされ、無事に授業日程を進めることができました。全体評価は「4.4」と高い評価をいただき、あたたかいコメントも多くいただきました。ありがとうございました。授業期間中にメール、zoom で質問をいただきましたが、今後も統計学を復習される機会があれば、気軽に質問してください。

科目名：地域医療学

履修者数：95 配付数：95 回収数：70 回収率：73.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.3	2.9	4.1	4.2	4.5

＊評価に対するコメント

地域医療学 担当教員

授業の満足度は4.5と高く、実際に地域医療に従事している講師の話聞かせるという形式が、この結果につながっていると考える。机上の空論ではなく、地域医療のリアルな現実を学生に伝えて、それにどのように対応するのか考えさせるという今の授業方針を今後も継続したい。

科目名：心理学

履修者数：95 配付数：95 回収数：73 回収率：76.8%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.1	3.2	4.0	4.3	4.4

*評価に対するコメント

心理学 担当教員

今年は、対面授業と同じ内容の講義を zoom により同時双方向形式で実施した。講義中に行う心理検査や実験も zoom で行った。講義中は、板書や質疑応答を学生に要求することで、講義への没入感を高めるように努めた。評価は全般的に高く、満足度の平均は 4.4 となった。自由記載でも「実際に心理検査などをおこなえて、楽しく授業を受けられた」、「具体例や映像などが多く理解しやすかった」、「チャットでリアクションしたり、他の人の反応を見るのが面白かった」など、教育効果の高さを示唆するコメントが並んだ。これらをもとに次年度は更なる改善を予定している。

科目名：機能形態基礎医学 I

履修者数：92 配付数：92 回収数：45 回収率：48.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.9	3.8	3.4	3.8	3.4	4.0

*評価に対するコメント

機能形態基礎医学 I 担当教員

本年度も COVID-19 感染拡大防止のため、講義室での対面授業と学修支援システム manaba 上でのオンライン授業の併用という形となった。昨年度に好評を得た当講座作成のオンライン学習用資料をブラッシュアップして今年度も使用したが、昨年度と同様に受講学生からは好評価を頂き、ほっとしている。次年度も COVID-19 の感染状況に関しては判断は許さないが、学生から寄せられた要望に応じて対面授業の割合を増やしたいと考えている。

科目名：生化学 1

履修者数：92 配付数：92 回収数：48 回収率：52.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.1	3.9	3.7	4.0

*評価に対するコメント

生化学 1 担当教員

昨年から、生化学講座の統合、またコアカリの改訂に伴い、コーディネーターとして、内科医としてのキャリアも生かして、より統一感のある、アップデートな臨床医目線に立った生化学講義を目指しています。改革初年度で道半ばであり、今年度も受講した学生からの評価（理解度や満足度）も、私としては決して満足できるものではありません。これを出発点として、学生の基礎学力などの背景分析もしつつ、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思っています。

科目名：生化学 2

履修者数：92 配付数：92 回収数：46 回収率：50.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.5	3.0	3.6	3.3	3.8

*評価に対するコメント

生化学 2 担当教員

昨年から、生化学講座の統合、またコアカリの改訂に伴い、コーディネーターとして、内科医としてのキャリアも生かして、より統一感のある、アップデートな臨床医目線に立った生化学講義を目指しています。改革初年度で道半ばであり、今年度も受講した学生からの評価（理解度や満足度）も、私としては決して満足できるものではありません。これを出発点として、学生の基礎学力などの背景分析もしつつ、学生が満足できるよう、教員側もポイントを押さえたメリハリのある講義内容や講義資料の改良を不断に続けていきたいと思っています。

科目名：免疫学

履修者数：92 配付数：92 回収数：44 回収率：47.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.6	3.2	3.6	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

問5、6で、いずれも3点台の評価を頂きました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教官の方へ質問して頂きたいと考えます。教科書を全て読む必要はありませんが、指定した教科書は分かりやすく書かれており、ポイントを踏まえて読めば、理解の助けになります。実践をお願いします。

科目名：医用機器学

履修者数：92 配付数：92 回収数：39 回収率：42.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.7	3.1	3.8	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

医用機器学 担当教員

アンケート結果を担当教員で共有します。コロナウイルスの影響下でオンラインでの講義となった部分が多く、実際の講義室での講義と比較して理解しにくい部分もあったかと思いますが、教材については工夫していきたいと思えます。今後もニーズに沿った講義を目指します。

科目名：医療社会学

履修者数：92 配付数：92 回収数：33 回収率：35.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.0	2.9	4.0	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

今年度は、大学に登校している学生には対面での講義、残りの学生にはzoomを用いたオンラインでの講義という形式で実施しました。学生評価の集計結果をみると、授業の理解度はさほど低くないことから、授業形式の影響はあまりなかったと推察しています。自由記載の回答なども参考にして、来年度の授業を企画したいと思います。

科目名：医学英語Ⅲ

履修者数：116 配付数：116 回収数：52 回収率：44.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.9	3.1	3.9	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。講師別クラスでは、分散登校のためオンライン授業となりましたが、皆さんは、課題の意図を理解し、しっかり取り組んでくれたという印象を持っています。

科目名：心肺病態制御医学

履修者数：116 配付数：116 回収数：66 回収率：56.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.8	3.5	3.8	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

コロナ禍での講義という難しい教育環境が続く中ではありますが、学生評価は昨年よりも改善傾向にあり、学生からの「manabaによる資料配布より、zoomや対面での講義が理解しやすかった」とのコメントの通り、今年はzoomを使うことができたことが救いであったと考えられます。難しい状況はまだ続くと考えられますので、講義の予習・復習をしっかりと行い不明点を自ら調べるなどの努力が望まれます。

科目名：消化器医学

履修者数：116 配付数：116 回収数：62 回収率：53.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.1	3.7	4.0	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

今年度は半数登校で開始されたが中盤からは緊急事態宣言のため全員がリモート環境での受講となった。例年回答するのは学習意欲の高い学生が多いと思われるが、予習実施割合が低下した以外は概ね前年と同程度の評価となっている。講義順を臓器ごと（シラバス通り）に行うことを望む意見があった。全く同意するが多くの臨床教員の予定調整に限界があるうえ、空きコマの使用を原則禁止されているため実現困難なことをご理解頂きたい。

科目名：医療概論Ⅳ

履修者数：133 配付数：133 回収数：26 回収率：19.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.9	3.3	3.8	3.9	3.8

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅳ 担当教員

回収率が20%未満と低く、評価の妥当性が問題であるが、満足度、難易度、理解度とも4点近くで、概ね良好な評価と認識している。患者の話を聞く授業に対しては貴重で有意義という感想があり、今後も継続していきたい。

科目名：麻酔科学

履修者数：133 配付数：133 回収数：38 回収率：28.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.6	3.8	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

麻酔科学 担当教員

今年度は、対面授業とオンラインを併用した麻酔科学の講義となりました。問6の全体の満足度に関する4.1点の結果は、ある一定の評価を得たと考えますが、まだ我々にも改善の余地があるかと認識しております。コロナ禍がどこまで続くか分からない現状において、オンライン授業の満足度を向上させる工夫が我々教員にも必要であると感じております。

科目名：救急医学

履修者数：133 配付数：133 回収数：38 回収率：28.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.9	3.5	3.8	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

救急医学 担当教員

今年度も、いろいろと貴重なご意見を頂きありがとうございました。オンラインを併用した講義形態にも慣れてきて、教員側の対応も昨年度より改善したのではないかと思います。評価に関しても概ね満足の得られる結果でしたが、自己学習に関しては不十分で、今後もさらに皆さんの興味が得られるよう、より一層の充実を図ってまいります。

科目名：整形外科

履修者数：133 配付数：133 回収数：40 回収率：30.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.7	3.5	3.6	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

整形外科 担当教員

評価平均は3.3～3.9であり、昨年より若干の低下を認めた。個別の感想において、「スポーツ障害など身近な分野に関する知識が増えた」、「解剖学と結びつけて考えることができた」と肯定的なものがあつたが、「整形の他に同時期に学ぶ科目が多く、細かいところまで問われるのは大変だった」というものもあつた。高齢化社会、がん運動器疾患など整形外科の果たす役割は増加傾向にあり、これ以上の授業内容削減は困難であるため、引き続き学生にわかりやすい講義を心がけていきたい。

科目名：腫瘍学2

履修者数：133 配付数：133 回収数：45 回収率：33.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.7	3.4	3.8	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

全体として満足できるか?の項目は3.8であり例年と変わらず、未だ満足できる状況ではない。事前に予習をしたか?の項目は3.3と低く、自主学習などの改善を望む。今後益々重要になるゲノム医療、個別化医療についての内容も盛り込んでいく。

科目名：臨床放射線学

履修者数：133 配付数：133 回収数：38 回収率：28.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.5	3.4	3.6	3.4	3.8

＊評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

アンケート結果に関しては担当教員の間で情報を共有して、可能な範囲で検討したいと思います。オンラインの部分もあり、放射線科という内容の性質上、スライド等では伝わりにくい部分もありますが、今後もニーズに沿ったより良い講義を行いたいと考えています。実習でも頑張ってください。

科目名：法医学

履修者数：133 配付数：133 回収数：41 回収率：30.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.8	3.5	3.7	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に分類され、臨床医として、検案（検屍）業務を依頼された際の基本的知識、外因死に関わった際の注意点を理解し、屋内や屋外で亡くなっているヒトを診て、検屍（検案）ができることを目標としている。今年も後半は manaba による講義となったが、学生サイドからは興味をもって受け入れられ、授業評価の評点からも概ね有意義な講義であったと言える。

科目名：臨床疫学

履修者数：133 配付数：133 回収数：40 回収率：30.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6

＊評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

昨年に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響があり、zoom のみの講義などになってしまいました。臨床研究や疫学研究の論文を解釈するのに必須の知識となるので、今後もこの領域について知識を up date してってください。

科目名：臨床検査学

履修者数：133 配付数：133 回収数：40 回収率：30.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.5	3.8	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

問6の全体としての満足度では3.9でした。科目内容では問5で示した難易度で3.9と昨年よりやや高くなりました。対面講義が少ない場合に学習意欲を高めるのは難しいです。配布資料の工夫、新しい検査機器の写真や遺伝子検査など新しい検査技術の紹介など内容の充実、方法の改善に取り組みます。検体処理を画像で紹介したり、検査値の読み方を紹介して臨床実習や研修における実用的な力となれるように努力します。

科目名：健康弱者のための医学

履修者数：133 配付数：133 回収数：27 回収率：20.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.8	3.4	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

医療発展により健康に弱みを持ち（健康弱者）ながら地域生活する方々が増えている。健康弱者は刺激や疾病罹患の際に健常者と異なる反応や病態が起こるが、現代医学教育でそれらを学ぶ機会が無いことから、健康弱者への医学・福祉的対応を学ぶため2012年に創設した複合科目である。教科書が無いため各講師の講義が重要であるが、残念ながらコロナ禍によりzoom講義であったが、おおむね良好な評価であった。

科目名：衛生・公衆衛生

履修者数：133 配付数：133 回収数：40 回収率：30.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.7	3.4	3.8	3.7	4.0

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

本講義は比較的幅広い領域をカバーしているため勉強が大変だったと思いますが、今回注目されることになった健康危機管理や、今後の皆さんが働く際の保険医療システムなど重要な領域が多く含まれています。地域医療を実際に行う際には科目に関係なく医師として必須の知識が多いので、しっかり勉強を続けて下さい。

科目名：医療情報学

履修者数：133 配付数：133 回収数：42 回収率：31.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.6	3.2	3.7	3.5	3.5

＊評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

今年度は zoom のオンラインと対面を併用する予定でしたが、状況が改善せず zoom のみの授業となり、講義時の学生の zoom 接続も全体の3分の1程度しかなく学生との意思疎通がほぼできない状況で、配布資料などが適切でないものもありました。このため、来年度は双方の形式に対応できるように改善を行いたいと思います。

科目名：医療安全

履修者数：133 配付数：133 回収数：32 回収率：24.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.0	3.6	3.9	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

2021年度も残念ながらオンラインのみの開講となりました。対面授業が行えない中、みなさんしっかりと学んでいたと思います。レジュメ資料のアンケート結果なども取り入れて次年度の講義を改善していきます。2022年は科目担当者をはじめ、授業担当の入れ替わりが多く行われますが、時代にマッチした医療安全講義を目指します。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学

履修者数：133 配付数：133 回収数：40 回収率：30.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.6	3.5	3.7	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

本講義は全体としての評価は平均3.6点程度ですが、満足度は3.9点とまずまず良好であったと思います。授業内容は2年生の薬理学履修を前提としており広範な知識も必要ですので難しいと感じることもあるかと思いますが、ただ医療において薬物療法は診療科を問わず重要な治療手段ですので不明な点等は積極的に質問等などをして、十分に理解して欲しいと思います。本講義では、さらに理解しやすく学習効果が高くなるよう改善を行っていきたいと考えています。

科目名：症候別・課題別講義

履修者数：133 配付数：133 回収数：31 回収率：23.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.9	3.4	3.8	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

症候別課題別講義は4月から開講され、本年度は対面とzoomのハイブリッド授業とさせていただきました。また試験は昨年と同様、オンラインで実施しました。講義のテーマは文部科学省のコアカリ37症候を基本に構成されていますが、重複するテーマについては新カリキュラムに向けて再検討する予定です。今後も学生の授業・試験に対する評価を真摯に受け止め、授業の改善に努めていきたいと考えております。

科目名：初年次セミナー

履修者数：60 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	4.3	3.0	4.1	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

本年度もCOVID-19により、グループワークができませんでしたが、講義などは半数対面、「看護の世界」は全員対面で行うことができました。全体の満足度に関しては平均4.4と、比較的高い評価をいただいたので、健闘したように思います。次年度はより充実した企画を提供したいと思っています。初年次セミナーは終了しましたが、アカデミックスキルは一朝一夕で身に付くものではありません。今回関わった教員一同、皆さんのスキルが向上するように、そして充実した大学生活が送れるように、卒業するまで見守りたいと考えています。

科目名：看護社会論

履修者数：60 配付数：60 回収数：55 回収率：91.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	4.2	3.0	3.9	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

今年度は、大学全体の方針に従って、分散登校で授業を実施しました。課題の採点結果なども加味して推測すると、対面での受講とオンラインでの受講で授業の理解度に大きな差は生じなかったと考えています。授業内容が適切に伝わってよかったです。授業評価の集計結果は、次年度の授業内容や講義の形式を考えると参考にします。

科目名：発達心理学

履修者数：60 配付数：60 回収数：54 回収率：90.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.1	3.1	3.9	4.4	4.5

＊評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

今年度は、教員が通常の対面授業と同様の講義を行っている動画をmanaba上で視聴するオンデマンド形式の講義を行った。動画中は、板書や心理実験への参加を学生に要求することで、対面形式と同一の教育効果が得られるように努めた。評価は例年よりも高く、満足度の平均は4.5となった。自由記載でも「幼児期の発達の動画が興味深かった」、「自分のペースで行えたため、受けやすかった」、「覚えなければいけないものも多く大変でしたが、実際の映像や自分自身で体験することで理解に結びつけることができた」などの肯定的なコメントが多数見られた。これらを参考にして次年度は更なる改善を目指したい。

科目名：情報リテラシー

履修者数：60 配付数：60 回収数：55 回収率：91.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.6	3.6	2.8	3.7	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

Every year, we receive comment on the assignments, such as the following, which are difficult, and the course progresses quickly. The content of the lecture is explained slowly, repeatedly, and in detail. It is important to learn new things that are unknown, so it is natural that you cannot immediately understand what you do not understand in the lecture. When you don't understand, you have to find out so that you can understand it. That is learning. We are always asking you if you have any questions, but why not ask them at that time? Why not rethink how you learn? Thank you.

科目名：医療史・医療哲学

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.9	2.9	3.8	3.9	4.3

＊評価に対するコメント

医療史・医療哲学 担当教員

今年度は、COVID-19の影響のために対面講義をとりやめて、manabaによるe-learningで実施しました。講義では、ケアや自律の尊重など、看護に底流する哲学的課題を扱いました。第1学年の学生には、まだ馴染みがない課題でしたが、授業の理解度は高かったようです。講義で扱った課題は生涯を通じて考えるべきテーマですので、今後も深い思考を続けて欲しいです。

科目名：看護学概論

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.9	4.0	3.4	3.9	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

看護学概論 担当教員

グループワークによる意見交換について肯定的感想の記載があり、コロナ禍においても3密を避けての半数登校やzoom併用のディスカッションを行うことの意義があったと考えます。今後の看護学の学びの基盤となる科目であり、満足度4.3は目標達成といってよいと評価します。

科目名：コミュニケーション論

履修者数：60 配付数：60 回収数：56 回収率：93.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.2	3.2	4.0	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

コミュニケーション論 担当教員

本授業は参加型の授業内容を数多く入れたいのですがコロナ禍でそれが難しく、今年度は事例や動画教材を数多く提示して考えてもらう授業を意識しました。結果として全体評価は4.5となり、学生の多くは到達目標が満たされる学習ができたものと振り返ります。今年度工夫したことは、小テストに記述式の問題を取り入れたことでした。2行くらいで記述できる問題でも、学生は興味・関心をもって深く考えてくれており、知識の確認というよりは考えのまとめとして小テストが活かされたかと評価します。

科目名：栄養学

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.2	3.8	3.9	4.3

*評価に対するコメント

栄養学 担当教員

昨年に引き続きコロナ禍ではありましたが、本年度は半数対面による講義を行うことができました。アンケートの結果は、難易度の適切さの平均は4.3ポイント、全体の満足度については4.4ポイントと高く、“楽しかった”という意見もいただきましたので、適正な企画であったと考えます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います。

科目名：英語ⅡA

履修者数：61 配付数：61 回収数：37 回収率：60.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.8	2.7	3.7	3.8	3.9

*評価に対するコメント

英語ⅡA 担当教員

今年度の英語ⅡAはmanabaによるオンライン授業で、時事的記事の読解演習を行いました。英語の読解力の向上を実感しただけではなく、記事内容に対する関心を深めることもできた受講者もいたようです。受講者の熱心な取り組みに敬意を表します。

科目名：英語ⅡB

履修者数：61 配付数：61 回収数：36 回収率：59.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	4.0	2.8	3.8	3.9	4.2

*評価に対するコメント

英語ⅡB 担当教員

I am glad that most nursing students seemed to enjoy English, and to find our class of value. For nurses, English is not the most important subject, but English ability is certainly an asset for health care professionals. It is a privilege to teach future nurses. Nursing is an essential and noble profession, and nurses are very special people. I understand this well, because there are many nurses among my own family and friends. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, hard-working, dedicated, kind, and trustworthy. I hope that each of our students will become the best nurse he or she can be, and be proud to wear the title "nurse."

科目名：統計学

履修者数：61 配付数：61 回収数：36 回収率：59.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.3	2.8	3.4	3.4	3.7

*評価に対するコメント

統計学 担当教員

今年度の授業形態は分散登校とオンラインとのハイブリッドでスタートしました。例年通りの座学とコンピュータ実習をブレンドした進行を予定しましたが、夏休み明けの感染拡大、及び緊急事態宣言等により、実習室を利用した対面授業は希望者のみで実施し、他の方はオンラインで受講いただきました。全体評価は「3.7」とまあまあの評価をいただきましたが、今後もハイブリッド形式の授業形態が続くことが予想されますので、質を高めていきます。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名：病理学各論

履修者数：61 配付数：61 回収数：38 回収率：62.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.0	3.3	3.8	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

病理学各論 担当教員

新カリ開始後2年目の病理学各論でしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数 zoom 授業となりました。しかしながら、全体の満足度の評価平均は4.3ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：臨床病態治療学 I

履修者数：61 配付数：61 回収数：39 回収率：63.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.8	3.0	3.7	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

臨床病態治療学 I 担当教員

新カリ開始後2年目の臨床病態治療学Iでしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数 zoom 授業となりました。しかしながら、全体の満足度の評価平均は4.4ポイントと高く、適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：健康教育論

履修者数：61 配付数：61 回収数：37 回収率：60.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.9	3.0	3.8	4.0	3.9

＊評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

講義は教科書に沿った内容を構成していますが、講義の量は毎年増加傾向にあります。そのような状況で学生の皆さんはよく勉強している様子がうかがえる結果だと思います。全体の評価で満足できないとの回答が1名おりましたが、今後は全員がある程度満足できるような講義になるようにしたいと思います。

科目名：成人看護学 I

履修者数：61 配付数：61 回収数：39 回収率：63.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.8	3.3	3.7	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

成人看護学 I 担当教員

全体的に評価は3点台であり、例年なかった問1 予習・問3 復習に1の評価がありました。成人看護学の概論と経過別看護の概論のため範囲が広がったことで、どのように予習・復習していいのかが学生が迷ったのかもしれませんが、自由記載にドリルなども欲しいとの記述があり、予習・復習ができるように工夫していくことを検討したいと思います。

科目名：精神看護学Ⅰ

履修者数：61 配付数：61 回収数：42 回収率：68.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.1	3.1	3.9	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ 担当教員

今回は半数登校とオンラインによる授業でしたが、評価は4.2であり、一定の評価はいただけたものと振り返ります。昨年度と同様の傾向なのですが、授業毎の小テストは15回を通して学生間の差が明らかに存在し、これは成績というよりも学習意欲の問題だと評価しております。予習の評価が3.1と低いことから、来年度は小テストを事前に公開し、授業のポイントを把握して意欲的に参加できるような環境づくりを考慮していきます。

科目名：臨床薬理学

履修者数：61 配付数：61 回収数：22 回収率：36.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.7	2.8	3.8	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

臨床薬理学 担当教員

新カリ開始後初めての臨床薬理学でしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数 zoom 授業となりました。全体の満足度の評価平均は3.9ポイントと比較的高く、ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：臨床病態治療学Ⅲ

履修者数：61 配付数：61 回収数：23 回収率：37.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.7	2.7	3.8	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅲ 担当教員

新カリ開始後初めての臨床病態治療学Ⅲでしたが、本年度はコロナ禍で半数対面、半数 zoom 授業となりました。全体の満足度の評価平均は4.0ポイントと比較的高く、ほぼ適正な企画であったと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：保健医療福祉システム論

履修者数：61 配付数：61 回収数：21 回収率：34.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.8	2.7	3.9	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は、法律や制度、経済など人々の生活を支えるシステムについて学び、よいケアを提供するための土台を考えるものです。法や制度だけで人と人の顔がみえず退屈な面もあったかもしれません。すこしでも皆さんに制度とくらしに興味を持っていただきたく、難病の患者さん宅と教室を zoom でつなぎました。今、医療を中心に学ばれている皆さんが医療だけではなく福祉や保健がつながることで暮らしやすさを創造できることを理解されたと期待しています。

科目名：在宅看護学

履修者数：61 配付数：61 回収数：20 回収率：32.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.0	3.9	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

在宅で行う看護のイメージができるよう動画を見て非常勤講師にご教授頂き、グループワークでも理解を深めました。在宅看護に関わる法令・制度、幅広い中からニーズの高い疾患、在宅ならではの強みも生かした看護過程の考え方など特徴が理解出来たと評価します。学生評価の予習復習点が低く、前日資料掲示による予習やオンライン復習テストを実施した効果の難しさも有りますが学習意欲、目標達成、満足が高まるよう努めて参ります。

科目名：がん看護学Ⅰ

履修者数：61 配付数：61 回収数：19 回収率：31.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.9	3.1	3.9	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

がん看護学Ⅰ 担当教員

今年度から、がん看護学Ⅰとして内容を拡充しました。COVID-19 感染拡大の影響下で zoom ではありませんでしたが、がん患者さんへの援助技術は学生の皆さんが G メンバー一丸となって実践し、考察することで例年以上の学修成果を得たと思います。学生の誰しもが一度は出会うがん患者さんへの QOL をどのように理解し、支援するかについて努力したその満足感が高くみられました。今後も充実して満足する授業を共に目指したいと思います。

科目名：成人看護学Ⅱ

履修者数：61 配付数：61 回収数：24 回収率：39.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.0	3.4	4.0	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

講義の理解に関する問2と科目の一般目標達成に関する問4はともに「4.0」、講義全体の満足に関する項目である問6も「4.2」であったことから、学生の学習目標はおおむね達成できたと考えられる。しかし、予習・復習に関する項目は他よりも低かったことから、今後は学習内容の定着のためにも予習復習の必要性を強調していくことが重要と考える。

科目名：高齢者看護学Ⅱ

履修者数：61 配付数：61 回収数：21 回収率：34.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	4.0	2.9	4.0	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

今年度は半数登校と半数は zoom によるオンライン授業であった。manaba による講義資料公開と小テストも併用であった。対面授業の際の学年と同様に予習・復習に関する項目は約3点であり事前に講義資料を公開しても予習に関する点数は向上していない。科目の満足度と難易度、目標達成度は4点台であり概ね良好と判断できる。しかし、回収率が34.4%と低いので、この結果が全体を代表しているとはいえないことに留意する必要がある。

科目名：チーム医療・リハビリテーション看護論

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.9	3.9	2.9	3.9	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

チーム医療・リハビリテーション看護論 担当教員

問2科目の理解は3.9であり、チーム医療について理解できたものとする。問6科目の満足度も4.2であり、リハビリテーション部の協力の元、臨床経験を踏まえた多職種による講義が学生達にとって良い学びになったものとする。一方で問1科目の予習は2.9であったため今後事前課題の提示などについて検討していきたい。また問3復習については、事後課題としてレポートを6回実施した中で学びを振り返っていたと思うが、2.9であったため来年度へ向け課題について検討していきたい。

科目名：看護英語文献講読

履修者数：48 配付数：48 回収数：15 回収率：31.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.1	3.9	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

看護英語文献講読 担当教員

看護英語文献講読は、選択科目ではありますが多くの学生が選択され、COVID-19感染拡大を避けるためzoomを活用する工夫を行いました。例年と比べ、難易度の適切性が向上し、目標の達成感と満足度が向上し、学生の皆さんがGWなどで積極的に取り組まれた成果として手ごたえを感じています。個別フィードバックのニーズもありますので、工夫を重ね、日本の医療と看護を理解し視野を広げる機会となることに取り組みます。

科目名：医療経済・看護経営論

履修者数：33 配付数：33 回収数：12 回収率：36.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.8	3.3	3.5	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

医療経済・看護経営論 担当教員

今年度より開講した本科目は、33名の履修がありました。ほとんどがzoomでの講義となり、また対面講義が再開してからも講義室での受講者が少なかったことが残念です。目標達成は3.5、満足度は3.8でおおむねよい評価だったことに安堵しています。次年度は履修学年が3・4年となりますので、興味のある方はぜひ受講してください。経済の視点で考える医療は大変興味深い内容でしたし、おなじみのマズローやリーダーシップ論も経済の視点から読み解くと一味違います！

科目名：国際保健看護論

履修者数：61 配付数：61 回収数：8 回収率：13.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.8	4.1	3.4	4.0	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

国際保健看護論 担当教員

この科目は国際看護と災害看護の2つで構成されています。問6の全体として満足は、4.3点と高い点数でした。オンライン講義2年目でしたが、zoomにより熱い思いを伝えることが出来たと思っています。皆さんのレポートからは、生活背景や文化を尊重しながら看護を提供すること、寄り添う姿勢、心のケア、すべてのライフサイクルに対しての幅広い支援、長期的な継続支援が求められることなど学ばれていることが読み取れました。災害看護と国際看護の共通点として人道支援の原則に気づいた学生もいました。看護は実践の科学です。災害看護も国際看護も最初から素晴らしい実践があったわけではありません。諸先輩たちが試行錯誤して作りあげてきたものです。今度は皆さんがバトンを受け取り、よりよい看護を実践していくことを期待しています。

科目名：医療安全論

履修者数：61 配付数：61 回収数：33 回収率：54.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	4.0	3.0	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

医療安全論 担当教員

初回のみ分散登校による対面授業をすることができたが、以降はすべてオンライン講義（zoom）となり、グループワークやディスカッションが難しかった。学生の理解度・難易度・満足度評価、感想などから、目標はある程度達成できたと考える。次年度はオンライン講義でも学生とのやりとりができる授業方法の工夫や試験で理解が乏しかった内容・量的課題の改善を図りたい。

2021 年度前期「企画に対する学生評価」

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に積極的に参加しましたか。
実習（演習）計画	問3 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで理解できましたか。
	問4 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問5 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問6 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
実習（演習）内容	問7 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問8 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問9 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問10 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問11 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
実習（演習）環境	問12 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能に問題はありませんでしたか。
	問13 実習（演習）用の設備・機材・用具などは量の面で十分でしたか。
	問14 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問15 安全の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問16 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う （非常に良い）
 ④ やや思う （良い）
 ③ どちらとも言えない （普通）
 ② あまりそう思わない （あまり良くない）
 ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：基礎生物学実習

履修者数：96 配付数：96 回収数：80 回収率：83.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.6	4.4	4.3	4.6	4.7	4.5	4.8	4.2	4.2	4.0	4.7	4.7	4.7	4.8	4.6

*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

昨年度の反省から、令和3年度の基礎生物学実習では、感染リスクの低減に努めながら対面の実習機会をできるだけ多く設けました。本年度は学年を4グループに分けてグループ毎に5回の対面式実習を実施しました（6回の予定でしたが緊急事態宣言により最後の1回は中止）。1回の対面式実習における学生数を例年（平時）の半分にしましたが、第4実習室の広さと感染リスク低減の観点からこの人数が適切であったかどうかは判断が難しいです。しかし、教育効果の観点からは、多すぎず、また少なすぎない人数であったせいか、学生と教員間のコミュニケーションの機会がむしろ増え、学生の実習への集中力も高まった印象があります。全評価項目が比較的良好であったこともあり、全員登校が可能になった場合でも1回の実習時における学生数をこれまでよりも（SARS-CoV-2感染拡大以前よりも）少なくするかどうかについては、今後、検討する余地があると考えています。

科目名：医用物理学実習

履修者数：95 配付数：95 回収数：73 回収率：76.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.6	4.2	4.1	4.5	4.4	4.3	4.6	4.1	4.0	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は4.4で、昨年度より0.3ポイント高い。今年度は、一つの課題について、予習を兼ねた思考実験と実験室で装置を使った実験を組み合わせた。さらに、思考実験と実験室での実験を交互に行う日程にした。学生は、まず思考実験で何が起きるか予測し、次に実験室でデータを得て解釈する。結果をレポートにまとめてオンラインで提出する。レポートは教員によって速やかに添削される。このような工夫が功を奏して、高い評価につながったと推測している。今後も実習内容の改善に務めていきたい。

科目名：生化学実習

履修者数：92 配付数：92 回収数：67 回収率：72.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.1	4.2	4.1	4.4	4.5	4.6	4.4	4.4	4.0	3.7	3.9	4.3	4.3	4.5	4.6	4.3

＊評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

昨年からのコロナ禍で、入学後、満足な「実習」学習がなかった学生に、感染対策の中で、できる限りの対面での「実習体験」をさせてあげようという思いで、スタッフの協力のもと、敢行した。急ごしらえの変則実習となり、いろいろ不備な点もあったが、学生間で協力しながらの対面実習を体験したことの意義は、多くの学生が感じてくれた。該当学年は、この逆境をはねのけ、今後も実りある学生生活を送ってほしい。

科目名：形態学実習 I

履修者数：92 配付数：92 回収数：44 回収率：47.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.5	4.1	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	3.9	3.8	3.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.2

＊評価に対するコメント

形態学実習 I 担当教員

本年度の形態学実習 I（「組織学実習」と「骨学実習」）は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、分散登校（登校班と manaba 班）による形式で行われました。昨年度は、manaba による完全オンライン実習でありましたが、今年度は実際に顕微鏡を覗きながら標本観察・スケッチを行う、という本来の「組織学実習」の形式を提供することができました（残念ながら骨学実習はオンラインになってしまいました）。実習企画に対する学生評価では、「実習へ積極的に参加したか?」、「事前に配布された資料は、実習を進める上で役に立ったか?」、「指導教官は適切な指導能力を備えていたか?」など、多くの項目において高評価をいただきました。実習に積極的に取り組んでいただいた点、オンライン実習用に製作した「実習解説書」に対してや、教員の指導能力を高く評価していただいた点に関し、とても嬉しく思います。一方、「課されたレポートの量や内容は適切であったか?」に対する回答が、低いスコアでありました（実習課題であるスケッチの量や、その評価に関しての不満などが反映された結果であると思います）。課題（組織標本のスケッチ）に関しては、このような実習状況においても、学生の皆さんに「人体の正常構造・組織」についてしっかりと理解して貰いたい、という教員の強い思いによるものであります。スケッチの重要性に関しては、実習中に何度かコメントしております。学生の皆さんに、その意味をしっかりと理解していただけるように、今後も努めて参ります。そのほか、本実習に寄せられた様々なコメント（もっと実習を行いたかった・登校班とオンライン班の課題の負担の差を感じる・骨学実習を行いたかった・とてもためになった実習である・スケッチのポイントをわかりやすく教えて欲しい、など）を参考にし、来年度の教育に反映させていきたいと思っています。

科目名：免疫学実習

履修者数：92 配付数：92 回収数：39 回収率：42.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.8	4.0	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	4.1	3.4	3.8	3.9	3.6	3.6	3.7	3.9	3.6

＊評価に対するコメント

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の御尽力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げているのと、コロナ禍の折、オンライン実習も多かったためか、問16で3.6の評価でした。来年度は最後の免疫学実習になりますが、対面で実習可能になればと祈念します。

科目名：微生物学実習

履修者数：116 配付数：116 回収数：46 回収率：39.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.4	4.5	4.3	4.5	4.4	4.6	4.5	4.6	4.2	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.5

＊評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

微生物学実習は、講義で学んだ微生物学の事象と理論を具現化し、観察、検証することで、微生物学に対するより深い知識の習得を目的としています。本年度はこれらの目的達成のため、細菌培養法、滅菌法、細菌同定法、ウイルス培養法を実習で学生の皆さんには体験してもらいましたが如何だったでしょうか。今後とも、常に微生物の最前線を学んでもらえるよう、実習内容の改善に取り組んでいきたいと思ひます。

科目名：寄生虫学実習

履修者数：116 配付数：116 回収数：47 回収率：40.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.2	4.5	4.2	4.0	3.8	4.4	4.3	4.6	3.9	3.9	3.6	4.4	4.4	4.5	4.4	4.1

＊評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

本年度は現地実習とオンライン実習を並行して行ったため、学生の皆さんには不満な点が多かったと思われます。しかしながら、なるべく重要な点を解説し、質問に答えることに務めました。実習終了後に個別に講座において標本観察をしたいと申し出る学生もいました。少ない人数でしたら対応できますので、ぜひ利用していただきたいと思ひます。

科目名：薬理学実習

履修者数：116 配付数：116 回収数：40 回収率：34.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.6	4.6	4.2	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.1	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

今年度は、密にならないように学生同士の距離を取った形で対面実習を行った。登校制限のため、例年の実習に比べ半分ほどの内容であったが、「実習が満足できるものであったか」の評価が4.4であることから、多くの学生に満足してもらえたかと思う。学生からは、レポートの締め切りをもう少し長く設定して欲しいという要望があった。時間が足らず納得いくレポートを作成できなかったかもしれないが、薬理学実習終了後、すぐ病理学実習が始まるため、次の実習に支障を来さぬよう今回の形とした。また、メールに対する返事がなく、不安にさせてしまったことについては申し訳なく思ひます。来年度はそんなことがないようにしたい。薬をいかにうまく用いるかは、医師の腕にかかっている。今一度、薬理学の復習をし、自分の理解に間違いがないか確認し、臨床系の講義・実習に臨んで頂きたい。

科目名：病理学実習

履修者数：116 配付数：116 回収数：45 回収率：38.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.5	4.2	4.0	4.0	4.3	4.4	4.2	3.9	3.7	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3	4.1

＊評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

コロナ禍のため、ほぼオンラインでの実習となりました。本来は実習室で直に顕微鏡でガラス標本を観察し、教官と一緒に会話や討論しながらの方がベターだと私も思います。対面に勝るものはないというのが正直な感想です。来年度は、実習室で行える事を祈るばかりです（2類指定感染症から外れればですが）。

科目名：生理学実習・演習

履修者数：116 配付数：116 回収数：58 回収率：50.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.5	4.1	4.6	4.4	4.5	4.4	4.4	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.3

＊評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

コロナ禍の中、本年度は「manabaによるwebでの演習」と「対面による実習」の両方を用いて生理学実習を遂行した。実習全体に対しては4.3点という高評価を得た。一方、「評価回収率が50%」であることや『実施方式に統一性が無かった』、『学生さんへの情報伝達方の不満』などの意見が複数寄せられたことから、学生さんにとって満足度の高い実習では無かった感が強い。「今後の実習の在り方」について熟慮する必要性を痛感している。

科目名：衛生・公衆衛生実習

履修者数：133 配付数：133 回収数：29 回収率：21.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.7	3.8	3.7	4.1	3.7	3.8	4.0	4.0	3.2	3.7	3.6	3.3	3.2	3.3	3.7	3.4

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

同名の授業科目と連動し実体験を通して理解を深める科目である。カリキュラム変更で期間が短縮されて以来、自由テーマでの研究実習が出来なくなったため、全体での環境測定、疲労評価、データ解析法の演習と、衛生・公衆衛生の実務関連の講演で構成してきたが、コロナ禍により対面実習が出来ず項目9、12-14の評価が特に低くなった。機器を貸出での環境測定など小グループでの実地実習などを併用するなど2022年度に工夫してみたい。

科目名：法医学実習・演習

履修者数：133 配付数：133 回収数：28 回収率：21.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.9	3.9	3.9	4.1	3.6	3.8	4.1	4.3	3.1	3.8	3.9	3.4	3.4	3.6	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

法医学実習・演習 担当教員

医学部教育における法医学の到達目標は、異状死体の検屍（検案）と、実践に即した医師法の適切な理解である。今年度も昨年同様、学習支援システム（manaba）にて各実習を行った。学生サイドから高評価であった事前の配布資料により、昨今の状況下において、概ねスケジュール通り実施することが出来た。臨床現場で実際に法医学的思考が必要となった時に、的確な問題解決能力を発揮して頂きたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.7	4.6	4.7	4.0	4.2	3.7	4.6	4.6	4.7	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

本科目は皆さんにとって初めての演習科目であり、受講に対して不安がある科目だったのではないかと推測します。取り組むことで不安が解消されたようで、講義も演習も熱心に学んでいました。技術習得のためには反復練習が必要ですが、そのためには技術の基礎を理解することが必須で座学も必要です。レポートは学習目標の達成に必要な量と理解していただければと思います。今後も感染状況を踏まえ、夏季休業中のような練習時間が設けられるよう検討していきます。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ

履修者数：61 配付数：61 回収数：40 回収率：65.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.4	4.3	4.2	4.2	4.4	4.4	4.5	3.9	4.1	3.9	4.2	4.1	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

感染対策としてクラスを半数ずつ、時間差で学習をする方法で演習を行いました。演習時間は短くなりましたが、皆さんが積極的に予習・授業に取り組み、専任教員・非常勤講師が細やかに助言および指導を行うことで、演習による技術の十分な習得については3.9の評価となりました。演習の満足度は4.3の評価であり、演習企画としてはおおむね良好と考えます。

科目名：基礎看護技術学Ⅳ

履修者数：61 配付数：61 回収数：39 回収率：63.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.4	4.3	4.2	4.1	4.0	4.3	4.2	4.4	3.9	3.9	3.7	4.0	4.0	4.2	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅳ 担当教員

授業評価にご協力いただいた皆さん、ありがとうございます。この科目は看護実践に不可欠な看護過程を学ぶことが目的です。アセスメント等は思考の技術ですので、記載することで可視化できます。そのため提出物は必須です。唯一の正解がないため習得という意味では難しいですが、ディスカッションすることで思考の整理や深化が図られます。感染予防のためグループワークが思うようにできず、もどかしさを感じますが、皆さんの意見を参考によりよい方法を模索していきたいと思います。

科目名：地域包括ケア実習

履修者数：61 配付数：61 回収数：17 回収率：27.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.5	4.7	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.2	4.5	4.1	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

地域包括ケア実習 担当教員

1年次からの地域活動を踏まえた学習の成果であり、健康セミナー「げんき種」を中心に施設実習や専門職インタビューなど地域包括ケアを実際に体験する実習科目として、すべての問が4点以上、満足度は4.6点と回答のあった学生からは高い評価を得ました。住民の皆さんともども、楽しく活動できたと感じています。セミナーの内容、資料提示などが複雑になったことは科目責任者として反省点であり、次年度に改善すべく引き継ぎたいと思います。

科目名：実践看護技術学Ⅰ

履修者数：61 配付数：61 回収数：22 回収率：36.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.5	4.1	4.3	4.5	4.5	4.5	4.8	4.2	4.2	3.8	4.4	4.2	4.5	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

実践看護技術学Ⅰは新カリキュラムにおける成人看護学領域での演習科目である。

問11の「課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切であったか」のみ3.8で最も低かった。BCPレベルに沿って演習を企画し、全員登校の演習は教育センターへ演習計画を提出して行い、一度だけ非常事態宣言にてmanabaでの演習になった。回答した学生からの評価からこの演習は概ね良好だったと考える。

科目名：実践看護技術学Ⅱ

履修者数：61 配付数：61 回収数：19 回収率：31.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.8	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7	4.5	4.7	4.3	4.3	3.9	4.4	4.3	4.6	4.6	4.5

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

今年度初めての母性看護学、小児看護学、精神看護学合同の演習科目でした。領域毎の演習だけではなく、3領域合同演習を企画し行いました。皆さんは目標達成できる真剣な取り組みであり、学生評価結果からもお互いに満足できる演習であったと思います。来年度は課題の量や内容を検討し、学生評価を活かしていきたいと思ひます。

科目名：母性看護学演習

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.7	4.5	4.4	4.5	4.4	4.6	4.5	4.7	4.0	3.9	3.7	4.3	4.3	4.5	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

母性看護学演習 担当教員

全体の平均が4.35であり、学生も概ね満足できる演習企画であったと評価できる。履修課題は昨年度と同様であったが、難易度、量や課題内容を低評価とした学生もおり、COVID-19によるオンラインでの学習方法は、学生の学習ニーズに十分な対応をしきれなかった可能性が考えられる。今後は、オンラインによる学習方法の工夫を進めていく。回収率は41.0%と、登校による記述回答時期より低下した。回収率のアップも課題である。

2021 年度前期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員から適切な助言が得られた。 教員の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員の対応は、学生を尊重したものであったか。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習 I

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11
4.6	4.7	3.8	4.7	4.6	4.4	4.8	4.7	4.4	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習 I 担当教員

初めての臨地看護学実習はオンラインでの実習となりました。オンライン実習の中で、臨床の場での学習につながるよう、教材や実習病棟の指導看護師を交えてのカンファレンスなど工夫を行いました。みなさんが積極的に取り組んだことで「患者の療養生活・看護」の理解につながる実習になりました。実習の満足度は 4.5、看護職者を目指す意欲は 4.4 の評価であり、実習企画としてはおおむね良好と考えます。いただいた意見について検討し、改善していきたいと思います。

科目名：成人看護学実習 I (慢性期)

履修者数：61 配付数：61 回収数：28 回収率：45.9%

＊評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11
4.4	4.4	4.5	4.8	4.7	4.6	4.6	4.8	4.6	4.6	4.7

＊評価に対するコメント

成人看護学実習 I (慢性期) 担当教員

この実習は第 3 学年後期から第 4 学年前期にかけて行う慢性期の実習であり、病棟 6 階西と 9 階西で行っている。BCP レベルに従い学生は、13 名の学生は 1 日のみ病棟へ行き以降オンライン実習に、12 名は全オンライン実習であった。その他の学生は臨地で実習を行うことができた。コロナ禍での制限された実習内容ではあったが、回答した学生からは評点にばらつきがなく、概ね良好な実習であったと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（急性期）

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.4	4.3	4.0	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（急性期）担当教員

コロナ禍ということで、学生達は不安や緊張感の中での臨地看護学実習になったと考えられる。また、感染状況によってオンライン実習になるグループがあるなど、例年とは異なる状況下での実習となった。そうではあったが、学生達は意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったと考えられる。ただ1点、回収率が41%と低いことが気になった。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（外来機能）

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.4	4.4	4.6	4.5	4.5	4.2	4.4	4.7	4.6	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（外来機能）担当教員

この実習は第3学年後期から第4学年前期にかけて行う主たる形態が見学の外来実習である。コロナ禍での実習のため、内視鏡室と入退院センターでの実習は中止し、そこは学内で教員が視聴覚教材を使用して代替とした。この実習は12名の学生が全オンライン実習であったが、その他の学生は臨地で実習を行うことができた。評点では、問6「受け持ち患者の難易度」についてはやや低いのが外来患者であることから多様な患者の捉えが難しかったと考える。

科目名：小児看護学実習Ⅰ

履修者数：61 配付数：61 回収数：25 回収率：41.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.5	4.6	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ担当教員

回収率が41%と低く、加えて、manabaによる記名式での回収であったため、学生全体の評価を示しているとは言い難いと考えます。小児看護学実習Ⅰは健康な子どもを理解する実習であり、通常は保育園で行います。COVID-19の影響により、保育園で実習できたのは一日だけで、しかも学生数は6名です。学内やオンライン実習で教員が子ども役となってロールプレイ等を行い、少しでも学べる環境を作り工夫しました。

科目名：小児看護学実習Ⅱ

履修者数：61 配付数：61 回収数：22 回収率：36.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.1	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6	4.5	4.5

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅱ担当教員

COVID-19の影響により学生の半数以上が学内実習やオンライン実習に変更になりました。病院での実習も主に見学実習となり、バイタルサイン測定などの接触を伴う援助を実施できたのはごく一部の学生のみでした。

科目名：精神看護学実習

履修者数：61 配付数：61 回収数：24 回収率：39.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.3	4.3	4.5	4.4	4.5	4.3	4.5	4.8	4.6	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

精神看護学実習 担当教員

昨年から引き続き精神看護学実習は、COVID-19の影響により病院実習が行うことができたグループと完全オンライン実習のグループがありました。今年度は、昨年の評価を活かし、直接対象者と関わる時間に影響されず、実習目標が達成できるような企画に変更しました。皆さんと対話しながら実習を行い満足感の高い実習が行えました。来年度にも活かしていきたいと思えます。

科目名：母性看護学実習

履修者数：61 配付数：61 回収数：26 回収率：42.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.2	4.3	3.7	4.5	4.5	4.2	4.3	4.3	4.5	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

母性看護学実習 担当教員

すべての項目で4.0以上の評価を得ており、学生にとって概ね満足できる実習企画であったと評価できる。実習中の教員の対応（適切な助言、説明の具体性、学生の尊重）や全体の満足度については、前年度よりも評価が向上しており、改善の成果が反映されたと考える。次年度もCOVID-19感染対策を講じつつ、学生の到達目標達成へ向けさらなる改善の必要性等を検討する。回収率は42.6%で、登校による記述回答時期より低下した。回収率のアップも課題である。

科目名：在宅看護学実習

履修者数：61 配付数：61 回収数：24 回収率：39.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.6	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

コロナ禍の影響で訪問看護ステーション実習が行えず、manabaやzoomなどを利用したオンライン実習を行いました。課題を通し、訪問看護利用者の看護には、抱えている疾病のほか家族関係や経済状況、住環境など様々な視点があると学ぶことが出来たのではないのでしょうか。入院している患者さんは、退院すれば地域で暮らす生活者であるということを忘れず、多職種の連携も踏まえた看護を行ってほしいと思えます。実習お疲れさまでした。

科目名：高齢者看護学実習

履修者数：61 配付数：61 回収数：27 回収率：44.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
4.4	4.5	4.3	4.7	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5

＊評価に対するコメント

高齢者看護学実習 担当教員

高齢者看護学実習は全てオンライン実習で行われた。回収率は44.3%であったが全ての項目において4.3以上でありオンライン実習の満足度は高いと評価できる。特に問4「指導教員から適切な助言が得られた」は4.7であり、これは非常勤講師含めた3人体制で学生の記録物を丁寧に添削しフィードバックした結果だと考える。しかし、対面にまさる実習はないことから、安全を確保した可能な限りの対面実習再開を願うばかりである。

国際ロータリー第2500地区第3分区様から 本学学生への支援金を賜りました

令和3年12月16日(木)、国際ロータリー第2500地区第3分区を代表して、ガバナー補佐の竹内 一秋 様と同旭川ロータリークラブ社会奉仕委員長の石田 慶嗣 様が来校され、松野 丈夫 学長職務代理へ支援金を手交いただきました。

特段の御厚志に感謝申し上げます。



令和4年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由により修学困難な者に学資の貸与及び給付を行っています。本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、申請者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦しています。

令和4年度の奨学生募集は、4月に行います。奨学金を希望する学生は、提出期限内に所定の書類を提出してください。

なお、募集時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

令和4年度授業料の免除等の申請について

本学の授業料免除は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免（以下「新制度」。）」と「令和元年度以前からの従来の授業料免除（以下「旧制度」。）」の二制度により実施しています。いずれも申請の手続きが必要となりますので、以下の基準等に該当すると思われる学生で、授業料の免除等を希望する場合は、手続きを行ってください。

I. 授業料の免除等の基準等

1. 新制度

授業料減免・日本学生支援機構の給付型奨学金が一体となった制度であり、支援対象となる学生は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生で、次の①～③の要件があります。詳細につきましては、文部科学省等のホームページを参照してください。

- ①学業成績等に係る基準 ～ 成績不振により留置きとなった場合等は対象外となります。
- ②家計に係る基準
- ③その他 ～ 学士取得後に入学した場合等は対象外となります。

※文部科学省高等教育の修学支援新制度のホームページ
<https://www.mext.go.jp/kyufu/>

2. 旧制度

令和元年度までに入学した学生で、令和元年度に旧制度の支援を受けており、新制度に該当しない学生が対象となります。本学が授業料免除予算額の範囲内で免除者を決定し、全額免除又は半額免除を行います。当該制度の免除基準につきましては、以下をご覧ください。

- ①経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる場合。
なお、原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません。（病気・留学など特別な事由があると認められる場合は除きます。）。

※学業優秀と判断する基準

学部第1学年及び編入学生の当該年度の取扱いは入学を以って学力基準を満たしているとする。

学部第2学年以上の学生については、進級を以って学力基準を満たしているとする。

※修業年限の取扱い

医 学 科 6年（第2年次編入学生は5年、ただし平成27年度以前の編入学生は4年6ヶ月）
看護学科 4年

- ②授業料納期前6か月以内において学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等に被災したことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

- ③②に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

◎授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

II. 申請期間等

別途お知らせします。

III. 問い合わせ先

学生支援課学生総務係

TEL: 0166-68-2283

Mail: gaku-stu@asahikawa-med.ac.jp

ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。



申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。

学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。

- * 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- * 所得の目安は、 $128万円 + 扶養親族等の数 \times 38万円$ で計算した額以下である場合です。
- * その他制度の詳細は日本年金機構のホームページからご確認ください。

学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金(注) 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未納	×	×	×

(注)障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

申請時の注意点

- 申請できる期間
 - * 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前(既に保険料が納付済の月を除く)まで、将来は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
 - * 申請書
 - * 年金手帳(氏名・基礎年金番号記載ページ)のコピーと学生証
 - * 退職(失業)等の理由により申請を行う場合は、退職(失業)した事実が確認できる雇用保険受給者証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。